

かわら版

みちのく民俗村まつりッス！

以前からお知らせしておりましたが、平成4年の開村以来、今年30周年を迎えます。そこで、今年30周年を迎える30周年記念事業として開催することと致しました。同時に「株」展勝地が企画する「食いしん坊まつり」と、岩手県緑化推進委員会北上市支部が主催する「秋の緑化まつり」がレストハウス第1駐車場を会場に開催されることとなりましたので3つのイベントを合わせ「展勝地秋まつり」として初開催いたします。

① 〆る電ん

平成14年に亡くなられた初代民俗村長の高橋延清さん、通称「どろ亀さん」を偲び、写真や民俗村まつりでの村長対談のビデオ、経歴年表などを展示する「どろ亀さん回顧展」を民俗資料館2Fで開催します。北海道富良野市にある東京大学北海道演習林で過ごし、教壇に一度も立たなかったという逸話を残した東京大学教授時代の写真や、民俗村開村式、民俗村まつりでの村長対談などを紹介。開村式で披露された開村宣言の精神は、今なお受け継いであります。



北海道富良野市にある東京大学北海道演習林で過ごし、教壇に一度も立たなかったという逸話を残した東京大学教授時代の写真や、民俗村開村式、民俗村まつりでの村長対談などを紹介。開村式で披露された開村宣言の精神は、今なお受け継いであります。

② 伊達南部領境

村内を東西に貫つた切っまっている「伊達・南部領境」。いわゆる江戸時代の伊達藩南

部藩の藩境ですが、現在の国境ほどの往来制限があり、今の県境などの行政境とは比べられないものでした。民俗村を訪れる多くの方はここに藩境があるとは知らず、表示看板がイボラさんの説明などで初めて知ったという方がほとんどです。私を感じるのは、旧南部領の方々よりも岩手県南や宮城県からいらした方々の方が「へえ、ここに藩境があるんだ」マな具合に大きく驚かれています。西は駒ヶ岳山頂から東は金石市唐丹までの約130km。各地で数多くの言い伝えや事件などが歴史として遺されており、その一部をゲストスピーカーをお招きして紹介しようと北上市環境愛護連合会の皆様に企画運営していただく「藩境トーク」を開催します。

また、江戸時代の藩境を具体的にイメージできるものはないか、当時使われていた「う」を使い戦を再現するように藩境を越えなめる射るイベントはどうかと、恐る恐る北上市弓道協会長さんをお訪ねしご相談しましたところ、快諾いただいたのでした。協会員さんをはじめ市内の高校3校の弓道部にもお声がけいただくこととなりそうです。当日どういった催しになるか、私たちも大いに期待しているところです。博物館長さんに伺いましたが、まさにこの展勝地近辺で伊達・南部の境争いがあったことは古文書にもあり、歴史的に見てもそれほど突拍子もないイベントではないだろうとお墨付さもいただいたまいます。岩手朝日テレビさんでも藩境テーマにした番組も作られると



のこと。これを機会に多くの方にこの藩境を知ってもらえればうれしいです。他にも、藩境のまち北上には伊達側・南部側の民俗芸能が数多く残っており、伊達を代表した太鼓系鹿踊の「山山流口内鹿踊り」、南部側を代表する鬼剣舞として「相去鬼剣舞」の皆様に藩境民俗芸能として公演いただきますのでお楽しみに。

③ 消防

市内で唯一の消防関係資料施設である「北上市消防資料館」。園内の旧黒沢尻南高校舎の奥にあります。昭和56年に市内の消防の歴史を資料として出版された「北上市消防史誌」発刊にあたり、市内各地から集められた消防にまつわる資料を展示する施設としてオープンしました。マトイや半マン、手動ポンプや写真など。圧巻は当時活躍した真っ赤な消防車三台。小さい頃、消防自動車じぶたを見まあこがれた消防車。赤色灯やサイレンもなるように細工し、あり、子どもたちに人気の展示です。この消防資料館にスポットを当てて、北上市地区消防組合北上市消防署さんのご協力をいただき「ミニ消防フェア」を開催します。署員の方々がイベント続きで休みもないことから西日も午前中のみの開催です。現役消防車両と「赤パイ」やおなじみ「ミストドラゴン」の展示。子供向け防火衣着用OKの撮影。火災訓練用の「煙体験コーナー」など。また、北上市消防団ラッパ隊のみなさんによるラッパ吹鳴も予定しています。「♪戸締まり用心、火の用心♪。みんなで力をあわせ災害のないきたかみにしましょう。」



④ 伝統技術

民俗村には茅葺屋根の民家がいっぱいあるのはご存知でしょう。世界各地にも、その土地にある植物を使つた家の屋根を作

まっているところがあり、場所によつては笹や牧草なども。一般的なのは茅かや・ススキ、葦(よし)・藁(わら)など。今ではほとんど見られなくなり、歴史的建造物や神社や寺院など一部で見られます。岐阜県の世界遺産白川郷の合掌造りや福島県の大内宿などでは今でも地域の人の人々の合同作業によつて修繕作業が行われまありますが、民俗村では「葺大工」の辺では「ぶぎやぶ」と呼ばれました。「葺職人」による伝統技術によつて葺きと差し茅が行われます。そんな伝統技術を見る機会は今ほとんどないため、現在行われまいる葺き替え作業の現場説明会を行い、みなさんに茅葺の特徴とその工程をご紹介します。

また、こちらも少なくなつてしまっている左官職人による「土壁」。土に藁や砂を混ぜて水で練ったものを塗り固めるのですが、調湿作用・断熱機能・防火機能という主3つの特徴があります。現在の壁材施工に比べ工期が長くなるなどマイナスポイントばかり見られ施工も少なくなりました。しかし、SDGsのように循環型社会の推進などにより近年急速に見直されてきています。しかし、いかにせん土壁を施工できる職人さんが少なくなつており、民俗村の土壁補修にも前沢町から左官職人さんに来ていただいております。今回のまつりに合わせ、旧星川家の土壁補修を体験しながら、壁塗り体験も含めて協力いただきます。



以上4つのテーマのまつりとなりますが、西日も「第5回アランド楽土市」も同時開催となり賑やかに開催いたしますので是非お越しください。

アランド楽土市

みちのく民俗村まつりと同時開催、今年度は全5回の中の第8月の開催を中止としましたが、今回が最終回となります。出展者もお馴染みの顔ぶれにまつり色の新顔もラインナップ。今回の出展者をご紹介します。

出展コーナー

千田節子(北上市) 蔓饅頭せ植え
さをりひろば(花巻市) 「さをり織り」
コットンガーデン伊久(北上市) 「きものリメイク」
近野昌弘(北上市) 「手ぬぐい雑貨」
きぎげん(羊花巻市) 「草木染め毛糸クラフト」
ひつじがりや(奥州市) 「羊毛羊グッズ」
遊染夢舎(奥州市) 「藍、草木染め」
古民家クラブ(花巻市) 「古布リメイク、ぶどう籠、くるみ籠」
高作窯(北上市) 「陶器」
ミニミニ工房(奥州市) 「手作り雑貨」
田舎(羊花巻市) 「クラフト雑貨」



飲食コーナー
アトラスキッチン
大船渡市
「蒸し牡蠣、しらす丼」
バックシユ
トウバー(花巻市) 「ドイツ菓子、錫細工」
展勝地餅(北上市) 「白杵つき餅、おふかし」

とばせ園(北上市) 「みぎ、菓子」
立花茶屋(北上市) 「野菜、だんご」
自家焙煎珈琲マメヒコ(遠野市) 「コーヒー、焼き菓子」

体験コーナー

近野昌弘(北上市) 「色押し体験」
きぎげん(羊花巻市) 「毛糸つむぎ、羊毛マアト、流木マアト」
ひつじがりや(奥州市) 「モコモコきんちやく&トートバッグ、巨大ポンポン」
さをりひろば(花巻市) 「さをり織りコースター」
つぎなにつくろう(横手市) 「ちいさなほうき、なべしき、リース、茅コースター」
遊染夢舎(奥州市) 「和紙を染めま宝箱」
北上川サポート協会(一関市) 「竹灯りづくり」
ヨシカズ(じいさま)(北上市) 「縄ない、布わらじづくり、機織り体験」
お楽しみコーナー
すすむさん(北上市) 「似顔絵コーナー、射的」
ビッグロード(北上市) 「バルーンアート、紙芝居、バナナのたたき売り」



結ったんぼ「脱穀」

みちのく民俗村では、園内と南口の田んぼや、もち米を製作付けていますが、先月、結ったんぼ参加者の皆さんと刈り取りを行い、ほよ掛けし乾燥しました。次に待ち受ける作業は「脱穀」です。稲の穂先から籾(もみ)を取り出す作業で稲こきともいいます。みちのく民俗村まつりと同時開催の23日10時からになります。事前申し込みされた方には作業後のごびりが付きます。一般の方々でも作業体験は参加

出来ますので是非。

稲こき道具でまず一般的なものは「千歯こき」。金属製の固定された長い櫛で稲わらをしごき、籾を取り外します。時代が下ると道具も進化し「足踏み脱穀機」の登場です。昔の足踏み式ミシンをお使いいただいた方ならよくわかると思いますが、足踏みすることとげとげがついた



ドラムを回し、そこに稲わらをたたきつけるというものです。千歯こきほどの労力を使わずに作業が楽になったとはいえ、現在のハーベスタに比べるとまだま

だ労力が必要とされます。

さ、こまでが脱穀作業となりますが、お米が食べられるようになるにはもうひと作業。そう、籾を外さなければなりません。

民俗村の民俗資料館にある道具を使い、籾外しをします。こまを使うのが「木摺臼(きじりうす)」。籾は外側の籾がらに比べ中の玄米が硬いので、籾がらごと板などで挟んでグリグリこすつてあげると籾がらが割れ中の玄米だけ取り出すことが出来ます。臼と杵でやつめたこともありますが、こまで「木摺臼(きじりうす)」の登場です。臼が半分は割れまいると考えまください。上部と下部のあいだに洗濯板状の切込みが入つてあり、その切込みのあるすき間に籾ごと入れ、上部のみを回転させることで籾殻が割れ玄米と分離されます。横のすき間から籾殻と玄米が排出されるので、唐箕(とうみ)を使って分けることが出来ます。昨年の民俗村まつりで民俗資料館展示資料であるこの「きじりうす」の使用を博物館に許可いただき、この作業工程を子どもたち中心に体験しましたが、周囲で見守る大人たちも、あまり見たことがなかった道具だったと好評いただきました。スーパーなどでビニール製の袋に入つたお米を買つてくる現在の日常では味わうことが出来ない、「お米が食べられるようになるまで」の作業工程が見て体験できる機会として、ぜひ皆さまにもご覧いただきたいと思ひます。

もつ秋ですわ

朝夕は冷え込んできましたね。例年、民俗村は11月の初めころに紅葉の見ごろを迎えます。体験工房前の通称「恋の森」や受付今野家裏のモミジがきれいに赤く染まり、ホントキレイなんです。世界中を見ても木々が色づくのは日本だけだとか。日本に生まれれば良かったらっ感じです。この時期、受付からまっすぐ伸びる通称大通りを歩いてみると甘った

るい香りがぶんぶんするのです。こま仕事をしようになつて8年目になります。勤め始めた当初からこの時期「いつたこの甘い香りは何なんだ?植物っぽいような気がするが」と。この疑問を解決していただいたのは、自然観察会講師の鈴木清明さんでした。旧菅野家住宅から宝珠院・御番所に抜ける道を上がらず右手の斜面にこの正体がいます。「カツラの木」。ハート形のかわいい葉っぱで、秋に黄色に染まり綿あめのような「あま〜い!」香りが一体に広がります。民俗村の自然は、目に優しい新緑や紅葉を目を楽しませまくれませんが、この「香り」で鼻を楽しめるのも一興です。ぜひお鼻クンクンにいらしまね。



民俗村のこまが見どころ いも爺がお勧め!

ご存知のように民俗村は職員以外にも多くのボランティアさんが活躍しています。その中で菅野好一さん(通称ヨシカズじいさん)は古民家で藁細工、はた織り、みずひき、紙垂作りなどの無料体験を毎週土日祝の10時頃から15時頃まで担当して頂いています。俺と同じ爺様なの時々無断出勤もあり事前予約が確実かも。来ません。

